



はこいぬせんず

3Dcg Yuruyume Fantasy



うたいぬ ゆめ

今年のいぬずは、[ハ]型]です。

へんてこ どころかの こたつの 2匹
それは 今年も そうだけれど、

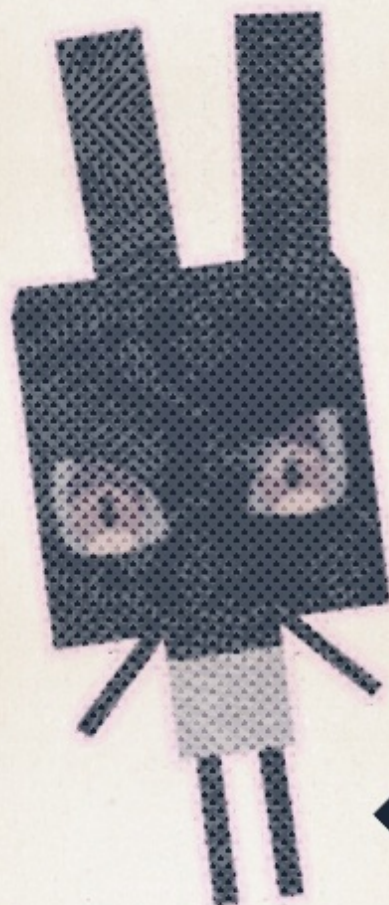
かたちが どこか ちがってる？

はこの年の瀬 はこの夢
その中 どんのかな？



◇ラクシャさん

生真面目な、
ふしぎ白犬



◆犬先生

飄々とした、
ふしぎ黒犬



夢の名残の　ながれつく
いつか　どこかの　青いしかくに

鳴り泳ぐ月　静かに照り
甘い菓の　花野になった

もう　なんとも　つかぬものが
なにかをはぐくむ　こともまた

ぱさぽそ　ながれる　白黒しかく
甘い花野に　ながれつき

しっぽの先まで のびをして
旅する2ひきに になりました

. . .



犬先生：やあ、私が犬先生である。そしてほら、作ってみたよ。



ラクシャさん：こんにちは、僕はラクシャと申します。おお、小さな僕らだね。



はこの白黒 砂の上
星がこぼれて できた砂
新しい星 うまれ来る砂

黒はこ 鼻歌 踊る群れ
白はこ 挨拶 光る粒々

いつ どのの なにだったろう
いつ どのの なにになるかな
それは 計り知れないけれど

いまでも けずれ つもり 結晶 しているみたい

鳴く砂の底より 浮かび行く 若星

2 ひきのはこいぬ 粒になるまで 見上げていたよ

・ ・ ・



犬先生：おお、若星...ごっくん。



ラクシャさん：（箱たち、固まってる...）



いつか どこか ちかくて とおい
夢の名残が流れ着くところに

白い はこいぬ 黒い はこいぬ

しかくい尻尾 ふんふん振りつつ
紙のような 野に であった

海色の 木の下で

いつから？ぼく いつからだろう
どこから？私は どこからだったか

はこたち くうん？と あたまかたむけ
同時に こしょっと こしをおろすと

そのそば おおきな はこ一角獣
絹糸のような尾を 音もなく なびかせ
ながい睫毛と 硝子の瞳

いつからか どこからか さまよえる はこたち
だけれど にひき ながめていました

へんてこ世界の かたすみで
いなく姿 飴色の樹木に かわるのを

・ ・ ・



犬先生：私には 幾つもの異なる姿と、幾者かわからぬ義兄姉弟妹がおるのだ。



ラジャさん：ざっとだけど、どちらも365種位かな... 記憶の本も 肩で息してましたよ。



はこず きょうは 夢奥の川の中
流れ行くもの こぷこぷ ながめ

はと時計 氷塊 衛星 稚魚たち
インク瓶 種 木琴の音 やけたパン

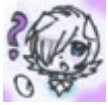
浮かぶものは だんだん 光る雫に
沈むものは だんだん 眠る泥に

はこず ぱさぼそ 流れるうちに
たがいとみずから ぼんやりと

なにかわすれた　かもしれない
でも わすれたくない こともあるから
かれらが かれらで あるうちに
にひき 岸にあがりました

紙細工のような ちいさなからだ
その中の熱も その中の氷も
忘却の川辺の 小春日和

・ ・ ・



ラジャさん：え〜っと...おや、どうしたんだい犬先生 そんなかつこうで。



犬先生：その意味をこれより作る予定である。して君の探す眼鏡は頭上だぞ。



はこいぬ白黒 夢奥さまよい
生きた おうちに であったよ

たぷたぷ ぷかぷか 浮かんでて
さわると何だか フェルトみたい
たまにしか扉 ひらかない
大体いつも ぐう、と鳴く

りっぱな葉の花 樹木とそびえ
ぽこぽこ煙 はいっている

おうちのかたちを しているけれど

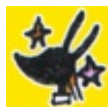
ほんとうは ちがうのかもしれない

僕のしるし だれかにそう みえたしるし
素敵ななまえ 記念に決めよう

それまでも なにかだった
「 」さんにも なった なにかは

ごろごろ どこか ならしながら
なみなみ ごきげん のびをしました

・ ・ ・



犬先生：みてみろラクシャ君、箱白っちが我が鼻に 憩うておるぞ。へぐしっ あっ



ラクシャさん：おわっ箱黒くん寝ぼけてブラックホール出さないでっ！



夢奥渡る はこいぬず
生きる おうちの 昔話 ききつつ
菓の花の木の 実りをみる

甘い香り いっそう漂い
紙包みの 殻のなかから
つるんと輝く 果実 でてきた

光るうちのみ 食べられる
とろける甘さの記憶が 種で
忘れた頃に 放たれ うずまる
どことも知れぬ 不思議の地平に

運んだものの　こころがしみて
芽吹くたび 別の甘味に なるそうな

箱の仔　夕陽と　かもめ　思い出した
箱の仔　月虹と　虫の声　思い出した

僕の　こころの種　どこで
君の　こころの種　どんな
大小の菓の花に　なるだろう

青い葉むらごしの　へんてこな 天空
音を出す雲　ながれていくよ

・ ・ ・



犬先生：私もたまには考えるのだ。夢奥の魔法使いの 限りは いかほどかと。



ウジャさん：まあ、有象無象の生物と 夢奥名物・混沌体操しているうちは平気だよ。



白黒はこず 今日 は迷宮
夢のあれこれ まぜこぜ 作った

でもあれ 出口は どこだろう？

咲いている花を 目印に
数えるたびに 増えていく

そちらから出た はずなのに
こちらがもう どのここやら

この扉！と 光をくぐり

少し違う また 迷宮

箱の仔 へたん 床をみてる
箱の仔 ぺろり 壁なめてみた

気配の風 こそえたり
強烈な風 耳おさえたり

箱の白 よく ききわけ
箱の黒 よく みわたし

弱気 つないで 探検中
ほこりたかげな 鼻歌のため
じしんなさげな 笑顔のため

・ ・ ・



犬先生：ホレ箱の私よ、鼻歌とはこう奏でるのだ。ふんふんへれっほお...



ラジャ：そうだ箱の僕、それが犬先生の謎をみたときの 丁度良い反応だね。



夢奥渡る 白黒はこず
きょうは大きな 谷の底

むかし積もった へんてこ地層
谷にはいろいろあるらしい

光の音や絵 つるはし打つには 慎重に
木彫り クレヨン ビーズの鋤脈
しゃつに どんぐり すの一どーむ
あれ この地層は びすけっと

ぽとぽと跳び出た たまをおいかけ

いっしょに転がり はしゃぐうちに
何かを置いて きたみたい

てるみんの調べ 夕陽の岩場に

名前がかすれて消えた 精巧な首飾りと
ちいさな ちいさな 鳴き笛おもちゃ

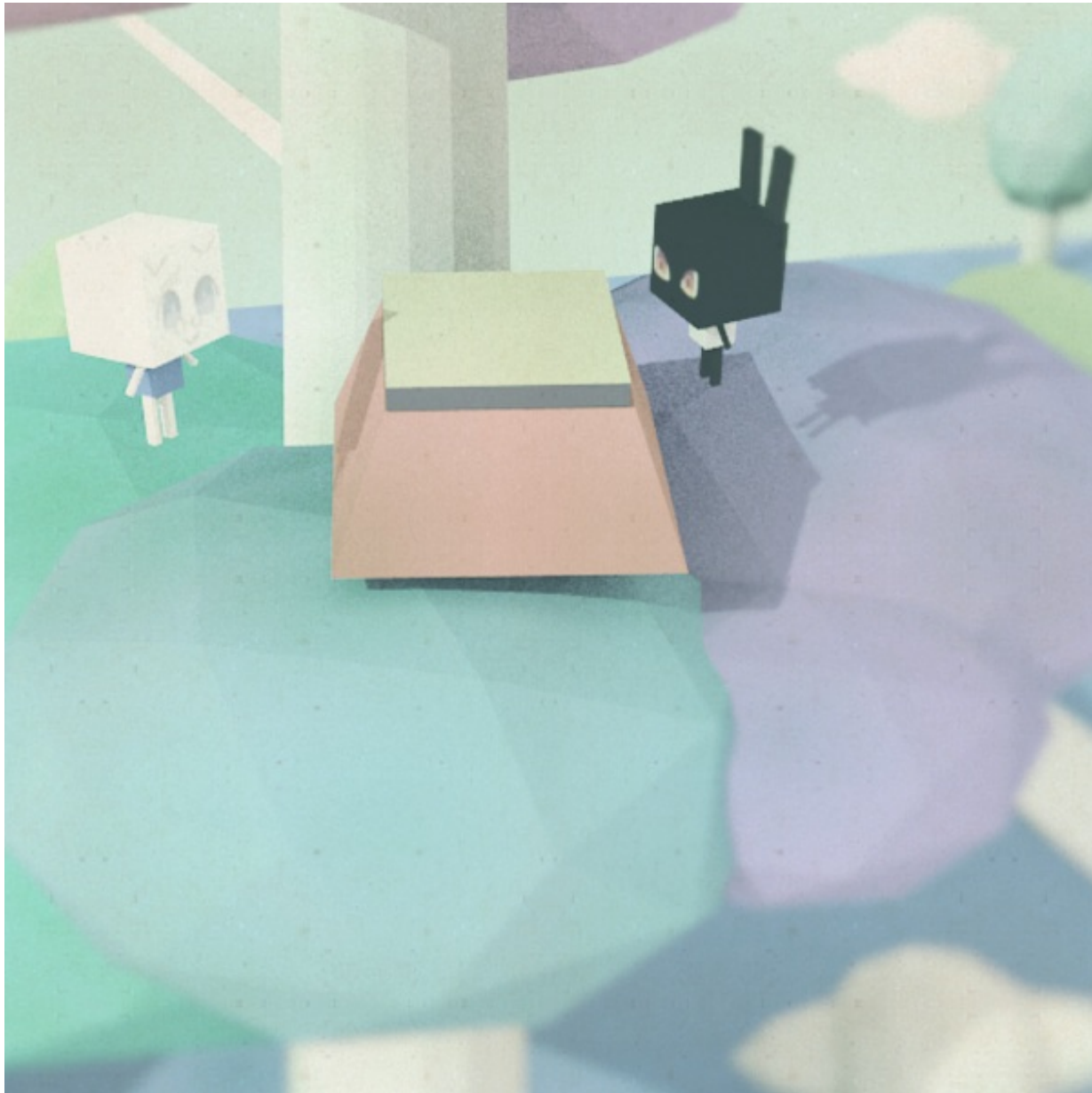
・ ・ ・



犬先生：たまには いぬ族の本能にならい戯れるも よきかな。がふがふっ



ラジャさん：きみの本当の名前って一体...？あっこらそれ僕のワオーン！



白黒はこいぬず 大樹の上
この木の形 広さなら
そこにあれが 置けるやも？

よつあし 2ひきで ここと決め
あったかいきれ かけていき
天板のせて ちょっと拭いて

魔法をかけて あたためながら
2ひき あたって 景色 じっくら

雲が下を もくもくゆくね

さかさまの雨 ふらせているね
いろいろ へんてこ その中で
おこた やっぱり あったかい

はこの仔たちの ちょびっとしっぽも
ことこと のびのび しているよ

大樹の上にも 下にも大樹
無数の木と こたつと はこずの ひととき

・ ・ ・



犬先生：私も 大体無限こたつタワーを設営してみたのである。



ラジャさん：わあ、はじめての景色...でも、どこから入るんだろう。



夢奥渡る はこいぬたち
へんてこ密林 遺跡をはっけん

しかくい岩が うかんで めぐる
もはや門しか 残っておらず
植物どれも どこかが回る

かたち以上に のこる以上に
そこには なにか あったかもしれない
そぼくな おそろべき にぎわう かなしみの
だいじな なにか あったかもしれない

けれども いまは まだわからない から
はこたち 遠吠えで ごあいさつ

回る植物 いっせいに
風もないのに ぐるぐると
からくり仕掛けの 古の搭

はこ達 駆け去る 背の森の深み
また ねむりにつく 古の搭

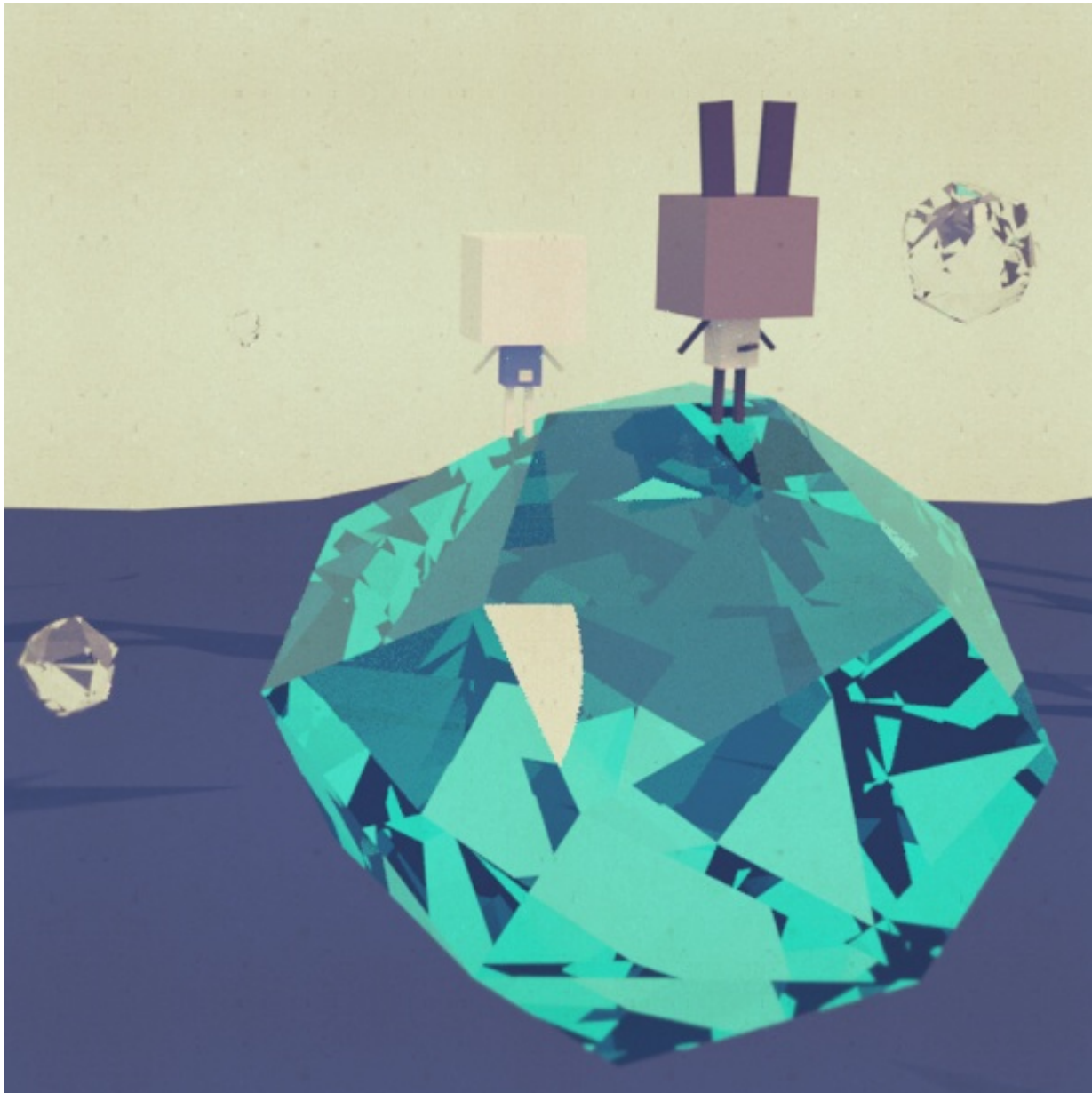
・ ・ ・



犬先生：ぐう...うう...足が出て冷えるのう。



ラジャさん：あ、じゃあ僕の作った足部快適伸縮装置出す？試してないけど...



夢奥 渡る 白黒はこず

水色 のんびり星に 乗っていく
日に 何度か なぜか結んで
じっくり しっかり 往来する

空ではじける 小星をみた
はでに ぶつかり 没する星も

乗る星 思えば どんどん ふしぎ
まるくて ぐるぐる なかに なにかが
しんぞうや のうは ないけれど

なんだか おおきな 生き物みたい

はこたち みおくる のんびり星

あいさつか 現象か

内部 わずかに 輝き きえた

・ ・ ・



犬先生：ここで問題である。私が食したアイスは、一体 何処へ行ったと思うかね？



ラジャさん：きっと君の腹宇宙のどこかだけど...そのアイス、名前 書いてなかった？



はこいぬ2匹の 夢奥の旅
広野は 常夜 見渡す限り

糸草がときおり 風の波
お話 道草 しながら歩く

ときは 風に にているね
風にも ときが あるのなら
ぼくらの旅は なんだろう

どこかから ふきはじめて
きっとどこかで ふきおわる

それは一体 どこだろう

それでもきっと なにかがつづく

ふきつけ よろめき それでもなにかが

でも なにかかは わからないね

あるまんだいんと あくあまりん

ひととき見あって ふっと見た先

常夜のぬしか 象徴か

かげでできた 巨大なけものが

過去にか 先にか 遠吠えをした

とざすか おおうか 雪めいた

厚い雲の連なりに はこず2ひきの ちいさな応答

. . .



犬先生：いやはや、遠吠えのあとの茶のうまきことよ...



ウツァさん：相変わらず湯飲みに浸かっているね、ワニ。



はこず きょうは へんてこな まち
夢の名残が とけあって
どこにもないのになつかしい

書店の中に 噴水がある
ビルの窓から 長い水槽
自動ドア 上下に 開いたり閉じたり

へんてこすぎて しまったのか
すんでいるのは ありばかり
壁や窓 葉きりの要領
まるく切り取り 運んでく

丁寧に作られた あり用 とんねる
変身 その奥 進めない
純正じゃないと いけないそうな

ころげて もがく ありさんを
たすけたら わかってきた

ちいさいかれら 機械仕掛け
切り取った破片で できている
だれかがつくった 精密な

と、思うと 街がない
ぽかんと はこず 足元に
爪の先ほどの ぜんまい

. . .



犬先生：わが宮殿、つくるそばから 逃げてゆくのだ...もぐふう



ラジャさん：ふふふ、はこ2ひきと同じ寝相だなあ。



白黒はこず きょうも さまよう
水か 空か あいだのところ

ふくふくした声 鳴き交わす
鳥の群れの 渡りとであった

みなが つける わけではない
それでも かれらは 夢路の雲路
なにかで ついだ みちをたどって
まもりの ものなき みちをたどって

ここは へんてこな 空だから

へんてこな僕らも 覚え歩こう

わたる鳥たち いたことを
かれらと僕ら まみえたことを

耳に遠く 愛らしい鳴き声

・ ・ ・



ラジャさん：空にいと、よく鳥がやってきます。



犬先生：私も地の底などに行くと、よくやってくるぞ。猛毒の大蛇とか。



さすらう はこず、島をみつけた

高くのびる 水上花
砂浜に森 高い山

箱の白犬 しっぽをことこと
箱の黒犬 耳をくるくる

きつと なにか ふしぎ
きつと ぼくら ふしぎ

花にきいたら 花はうとうと

こんにちは、と 行ってみれば

へんてこ島は ちいさくて

開いた帳面ほどしかない

その帳面ほどの島で

指の腹ほどの虎 滝の上

おおきなひろい ところにも

とてもちいさな ところにも

やっぱりなにかが いたんだね

空でふよふよ 話すはこたち

背にして海亀 遠ざかる

島乗せた海亀 遠ざかる

. . .



犬先生：んん...おや 髪に何ぞ ひっかかって ふっ それっ！



ラジャさん：おーい、惑星と目玉生物 飛んできましたよ。



さすらうはこず まほうの鏡面

いくつもの

白いはこいぬ 黒いはこいぬ

君はだれ？と 問うている

長いの 幅広 色違い

大小 形 そんな 無数と

白と黒 背中合わせ

どこかにある 本当の道

見つけられねば 像の一部に

君はだれ？ 君はだれ？
問われるうちに わからなくなる
僕がだれか 決めるのはだれ？
出口どこか 決めるのはなに？

目だろうか そのものだろうか

そのとき 同時に ひらめいて
2 ひきだけ 走り出した

鏡からでられぬ虚像 色々出して みせたけど
こころは鏡にうつらぬ 虚像
だけでも だいで へんてこな...

. . .



ラキヤさん：おや、はこ達走り出てきたね。さあ、こたつにおあたり。



犬先生：おお よしよし。...って後から後から出てくるなあ、はこず。



白黒 はこず

飛ぶ島の上

えんえんと 山並みの上

はるかな ときの どこかでできた
連なり ひろびろ みわたす ひととき

くらやみ もがけど ちからはいらず
それでも どの仔にも くれたぬくもり

てりつける陽に たたきつける すなあらし
むくろくらいたましいはこぶと やせた背に

いつかのどこか 2ひき 風に おもいだし
どこまでだろうと おもいかけ

はこたち 聞いたことないことば 出してみた
わん！と あいさつも してみたよ

ここがどこだか わからない
2ひきもいつか はこでなくなる？
それでも”ここ”と ”そこにいたぼくら”
その粒に なっていく

ひとときの つらなり

・ ・ ・



ラジャさん：ぼくらはいつまで、ぼくらなんだろう。



犬先生：まあ、そのうちさ。今は足を温めるがよい。して、新聞どこかな？



夢奥めぐり はこ2ひき
光り輝く花 みつけた

わかるはやさで
芽吹き のび
こうこうとほころぶ

照る 照らされる そのむこう
視界としげきと 感覚のあいま
滑らかな魚 花の光 すいこんだ

透けたおなかで はじけるきらめき

みるみる元気に　くるくる泳ぎ
魚はもう　青い闇に　どこだかとけた
花だった輪郭　もろくだんだん　風に乗り

そうして　なにかが　つむがれてゆく
なにかがはじまり　つづき　おわり
べつのなにかが　ひかりをはなつ

点いては消え　消えては点き
芳香の野を　白黒2ひき
くんくんしつつ　あるいたよ

白黒2ひきの　かげといっしょに

．　．　．



犬先生：もう、かげも形も 無きことよ... 私のカルパス...



ラジャさん：君と君のかげと はこの君の 好みの味は、わかったね。



夢のなごりが 流れ着く地
はこず きょうは 水晶洞窟

しずくがひとつ たれるたび
結晶 ころんと音がする

2ひきのはこが 来る前から
かれらが 聞いても 聞かずとも
2ひきが 去った そのあとも

洞窟が洞窟であるかぎり
ころんが ひびく

ころんが つづく

そんなことを思いつつ

はこたち 結晶 つついたら

かしゅんと割れて さらさらの粒

ちいさな前足 まるめてすくって

耳そばだてると さらさら 音楽

この現象と あの現象と

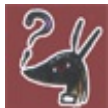
それでできた洞窟 ひと粒

そのなかの 2匹の ふた粒

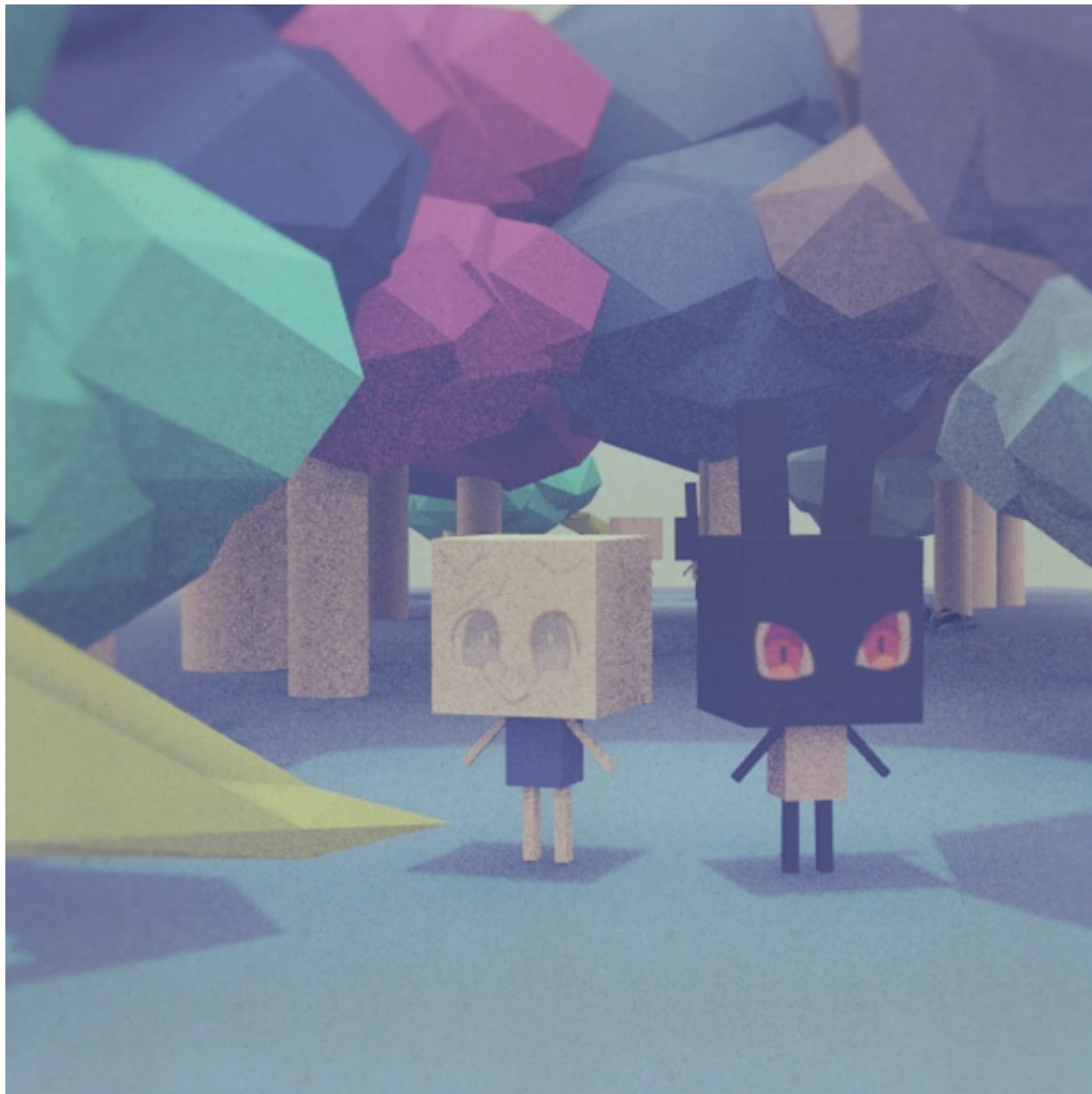
・ ・ ・



ラクシャさん：ああ うたたねしてしまった...わふわふ...ぐう



犬先生：まあ良いじゃない。犬生の大半は...って 寝言だったか。わふわふしておるのう。



白と黒の はこいぬたち

深い深い 森の中

鳴き声 におい 痕跡のもと

目ではみえない でも満ちている

鼻を鳴らして よんでみた

足をとんとん してもみた

がさがさ ほふほふ していたものが

わん！ とよんだら にげてった

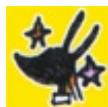
ことん　ときのみ　あとは風
うろや　ねっこや　葉脈は
そうみえている　姿以上に
それ以外の　くらしのあつまり

こうしている　いまもどこかで
たったか走り　もぐもぐ食べ
眠り　眠れず　羽や毛　つくろう

いろんなものたち　そのいのち

そんないくつものなか　いっとうの
へんてこ尻尾と　2ひきの　一瞬

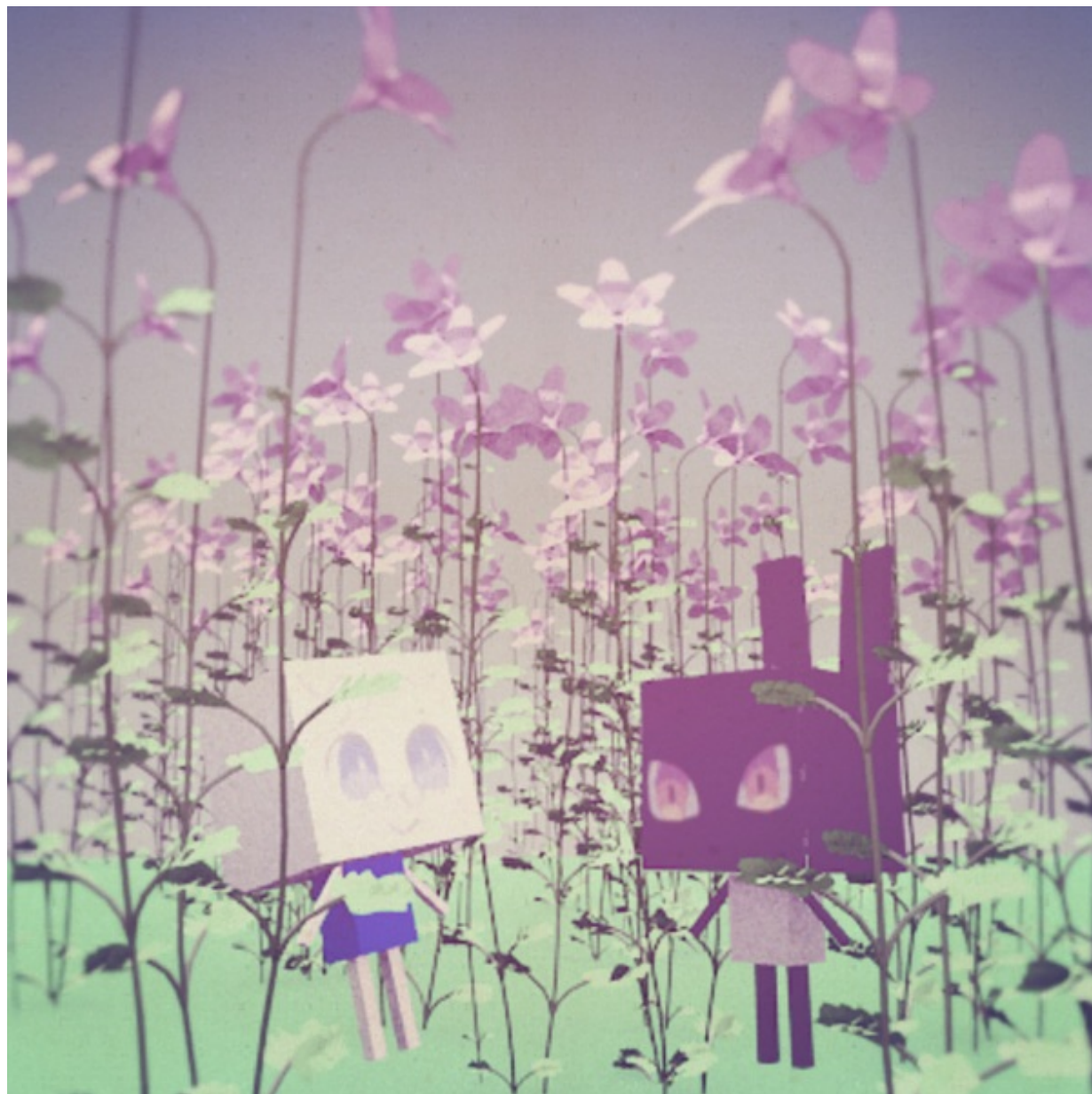
・　・　・



犬先生：我が腹宇宙には、数え切れぬほどの魔法達が生息しておるのである。



ウジャさん：君の記憶の分類 はてしないよ ほんとうに... 腰あたたっ



2 ひきのはこたち 花野のなか
せいたか さわると むずむず よける

黒いはいぬ 俊足の仔
白い仔 待ち待ち ほこほこ歩く
そちらのほうがいりいろ みられる

白はいぬ 考える仔
黒い仔 わいわい しるしに歩く
そちらのほうがいりいろ わかる

でも黒い仔は いつか ときがくることと

2 ひきが ひろがりのなかの2粒だと 知ってる
また白い仔は 2 ひきがぜんぜん ちがうことと
にた粒をふくんでいること 知ってる

白よ さらばの そのときまでは
黒くん ごめん どうもありがとう

ほえあわずとも こころにあって
きこえこずとも こころのことば

2 ひきの はこが みたものは
一斉に孵化した 竜の仔らが
雲間に つぎつぎ 舞うところ

・ ・ ・



犬先生：うう...私はもう少し眠るのだ 春に起こしたまえっ



ラジャさん：いいのかな、冬の味覚を食べ逃しますよ？さぁ片付け しよう。



白と黒の はこいぬが
夢の名残の流れ着く地を
しばらくさすらい 歩いたよ

だれもしってる もののよこ
だれもしらない へんてこのちかく
きげんと わすれさられたものの間を
たしかに2ひき 歩いたよ

みるひとおどろく とつくみあい
いぬたち ときどき するけれど
だいじなことを ききわかる

わん！のわん！以上のこと

とちゅうでのぼって 空に続く 一本道
泳ぐ月が照らす 一本道

これから ゆくさき どんなだろう
とおって きたところ どんなだろう

時の風が ふくように
2ひきも刻々 新しい
あまたの現象 へんてこなように
2ひきも色々 へんてこで
でもそれだから きみだね ぼくだね

しらぬものは なにもしらず
かいまみるものは かいまみる
謎と魔法が 鮮やかにいきづく ところ

また歩き出すまでの 野の上 空の下
へんてこ2ひき へはっとしたよ

・ ・ ・



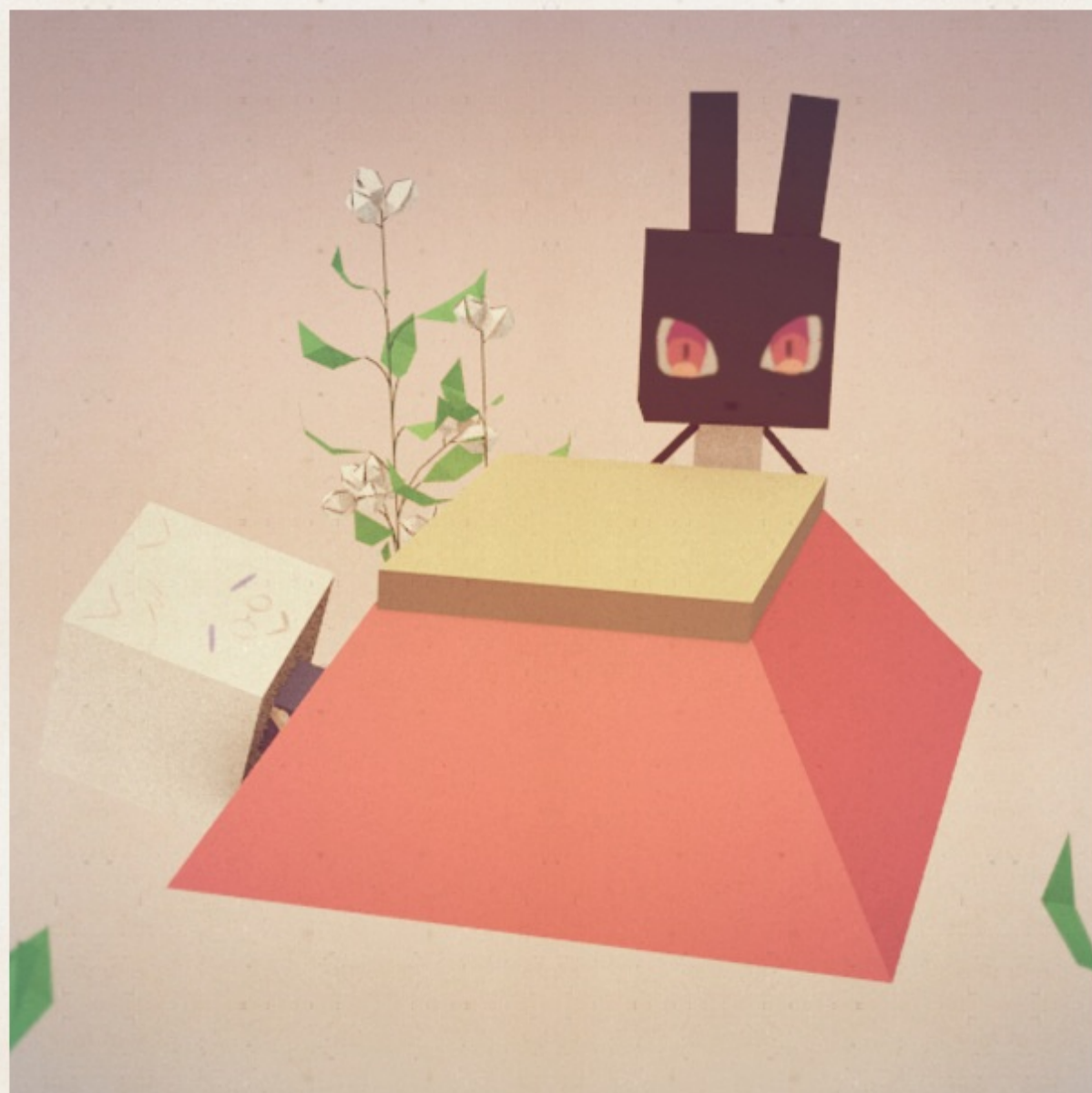
犬先生：はこの私、旅立ったようだな。それでは混沌魔法で時間を戻し...



ウツヤ：さあ 僕らも帰ろう。さてはこのぼくは...あっ ポケットで寝てる。

ごあいさつ

◆ Thank you 2017, Let's go 2018! ◆



毎度ヘンなものをお読みいただき、有難うございます！
3Dはこず、シュールと温かみが届かば、なによりです。
それではどちらさまも、ファンタスティックよきお年を…！



犬先生：やぁ諸君、しっかり身をあたためておるかな？

コロのはこいぬとともに 面白き魔法使いになりたまえ。ではまた、12の月にフフ...



ラジャさん：皆さん、お風邪など 召されておりませんか？

疲れた身を休ませ、はこ共々 新たな朝の光 浴びましょうね。では、よいお年を...！

はこいぬせんず

<http://p.booklog.jp/book/115798>

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/115798>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト